

市政に対する

一般質問

9月定例会の一般質問は9月12日・13日・14日の3日間行われ、11人の議員が市政全般に対する諸問題について質問をされました。紙面の都合上、主なものを掲載しました。なお、詳細については、11月発行予定の会議録をご覧ください。（市役所市政情報コーナー、図書館及び地域公民館、市議会ホームページなどで閲覧可能）

高齢者福祉

公的サービスの

拡充・拡大を

二本柳 妃佐子
(公明党)

問 近年、問題となっている孤独死や熱中症をはじめ、ひとり暮らし高齢者への安否確認の手段として緊急通報装置や乳酸飲料サービスは大変意義深い。

答 脳卒中や心筋梗塞などの急病に対応するには緊急通報装置の設置がとりわけ重要である。公的サービスの拡充・拡大の観点から現在の設置はどのような状況にあるのか。

また、孤独死対策として乳酸飲料配布サービス事業の今後の取り組みは。

答 緊急通報装置は、急病等

の際、装置のボタンを押すだけで消防職員と会話することができ、緊急時には救急隊員が駆けつけることができる。

現在設置費用の9割を市が負担しており、設置状況は平成23年8月末現在でひとり暮らし高齢者世帯の約25・5%に当たる468世帯に設置している。実績から見ると毎年約60世帯に新規設置している状況である。平成22年度の通報で駆けつけた件数は36件であった。また、乳酸飲料配布事業は従来から定着化しており、現在745人の方が利用している。

様々なサービスを実施しているが供給内容や財政負担の観点から少なからず課題はある。今後は真に必要な方へ適切に提供できるよう創意工夫し事業の充実に努めたい。

観光

観光レンタサイクル事業の改善点

小林友明
(新政策研究会)

問 観光レンタサイクル貸出施設の利用実態は、JR行田駅前の観光案内所が全体の60%以上を占めており、多くの方がここを起点に市内を回遊していることが見て取れる。しかし、自転車では道が分かりにくい、との観光客の声もあることから、観光客が自転車でも市内を走行することを想定して、より分かり易い誘導看板や観光スポットへの案内標識を設置すべきではないか。



観光レンタサイクル

また、レンタサイクルの車体をカラーペイントで同じ色にすることで、市民のおもて

なしの心を喚起して観光客への好意的なアプローチが期待できると考えるがどうか。

答 本市を初めて訪れる観光客にとつて案内標識が十分ではないと認識している。今後看板整備を継続し、楽しく観光できるように配慮したい。

また、レンタサイクルへのカラーペイントについては、観光客を一目で識別できるので市民がより接し易くなると思われる。現状はステッカーを車体に貼り表示しているが、更に分かり易くするためにも、議員提案の車体へのカラーペイントを実施していきたい。

生活安全

放射線量測定器の貸出しを

栗原二郎
(日本共産党)

問 精度の高い放射線量測定器を市が購入して、希望する市民に貸出してはどうか。

答 学校給食の安全確保対策と生徒・保護者への説明、市民を対象として学習講演会等を開催する考えはないか。

答 放射線量測定器が精密機械であり使用上細心の注意が必要なことや、現在市内全域

を細かく測定していることから貸出しは予定していない。また、学校給食の安全性については、保護者に対し文書により給食で使用する米や野菜の調達や調理方法の周知を図るとともにホームページ上で産地掲載を行っている。

問 行田市における自然エネルギーの活用としては、太陽光発電と小水力発電が考えられる。特に、太陽光発電は市内の公共施設に積極的に導入し、その施設で使う電力を賄うというエネルギー自給対策を進める考えはないか。

答 県北部の特性として、日照時間が長く積雪が少ないことから太陽光エネルギーの活用は有効と認識している。その他、風力・水力など自然エネルギーの活用方法を調査・研究したい。

水

出水対策の必要性

香川宏行
(新政策研究会)

問 近年の異常気象による台風やゲリラ豪雨などで市内各所において道路冠水や床下浸水が発生している。被害は、